

050206 M1 居住者インタビュー・森田正春さん・悦子さん・恭子さん

インタビュアー:中村 政人 アシスタント:福田 啓作

中村 (以下、N) :まず最初に、M1 を購入された契機及び当時の家族構成についてお聞かせ願えますでしょうか？

森田正春さん (以下、M) :ハイムを作ったのは、昭和 48 年、1973 年ですね。なぜ、ハイムを選択したかというのは、元々前の家が平屋で、昭和 18 年に作られて、ちょうど築 30 年経っていた訳ですね。同じ、この土地に建っていた訳ですが、たまたま家の横が、以前はドブ川だったんですね。それで、人口が少ない浦和市の中でも、下流の方がさらに人口も家も少なく、水はけも良かったのですが、ちょっと台風等が来て、大雨が降ったりしますと、部屋自体が水浸しになるような環境だったんですね。それで、ハイムを作ろうという頃は、下流の方にだいぶ家が出来ていまして、当然そのドブ川も管渠になって、大きいスチール管が入って、それで水の流れも良くなってきていたんですが、それでも年に 1 回位は・・・。

森田悦子さん (以下、E) :ちょうど年 2 回位続いたんですね。ちょうど水が上へ上がってきて、床下位まで。

M:まあ、このままでは家の方も持たなくなるだろうということで、急遽建てなおすということで、南浦和の展示場を見に行きまして、お金も無かったですし (笑)、工期が短いというのがハイムの魅力だったんですね。ユニット型で、ラーメン構造で、耐震性があると。それで、とにかく早く住み替えることができるということを目的に選択した訳です。ですから、購入の理由としては水が出て、前の家も平屋の木造で古かったですし、当時から娘が 2 人いまして、3 歳と 2 歳でしたから、また私の場合は両親とも早くに亡くしていましたから、そういう面では 4 人家族として、将来的にも娘 2 人ですから、30 年も経てばいなくなるだろうと思ひまして (笑)、そしたらかみさんと 2 だけでももう 1 度作り直してみようかな、というような頭ではいたんですが、なかなかその通りにはなっていませんけどね (笑)。

E:建て替えも、本気で建て替えるつもりでとにかく早くということでやったんですが、やっぱり人生色々で、建て替える計算には・・・(笑)。

M:ですから、建てた当時はこういった間仕切り等は無かったんですよ。2 階も含め、全くの 1 フロアでした。

E:子供も小さいから、自由に遊べるようにということで。この辺りは小さいお子さんがたくさん居て、家の前の道路が一番安全だったものですから、皆さんここに来て、遊んで、お昼を一緒に食べたりして、間仕切り無しの 1 フロアだったんです。

M:玄関から入って、階段を上ったり下りたり飛び降りたりして、子供たちは遊んでいましたね。

N:庭向きの部屋の開口部が全面開放されているので、結構オープンですよ。

M:ですから建てた当時は、そういうことで珍しがられたという面も非常にありましたね。

N:珍しいというのは、デザイン的なものもありますか？

E:それもありますし、「大きいクレーン車で箱が来た」と言って（笑）、何だろうということで、積木と同じで。

M:「空から家が降りてきた」って（笑）。

E:今はクレーン車で運ぶようなこともありますけど、当時は本当にみんなビックリしていましたよね。

M:できたらもうすこし広めにしておきたかった面もあったんですけど、予算の関係ですか、ご覧のように敷地が南北に長いですから、このユニットとしては横向きにはレイアウトしにくいですね。

N:購入された際もそうだったと思うのですが、M1のコンセプトとしては、家族構成の変化に応じて増減がしやすい、という点があったように思います。そういった点に惹かれて購入されたようなことはあったのでしょうか？

M:あります。やはり、間仕切り無しというのもその1つでしたし、現在は一番北側が半ユニット増築しているんです。

N:それはM1のユニットですか？

MM1 ではないのですが、ハイムさんをお願いしてやってもらいました。

N:それは何年位ですか？

M:それは昭和57年頃ですね。

N:その理由としては？

M:生活する上で、トイレの位置と風呂場の位置の関係、それに台所との生活動線の具合が悪いか、ということで広げることになりました。子供たちも大きくなっていましたし。たまたま北側に温水器があったり物置があったりして、幾分余裕があったものですから。ただ、この1ユニットの幅分である2,400が収まらなかったんですよ。その辺り、始めに設定ミスがあったかな、という気がしますけどね。だから今は幅が1,900しかないんです。

N:全部少しずらしたい感じがしますが、なかなかそうはいかないですね。

その他に、住みながらご苦労された点や問題になった点等がありましたでしょうか？

M:やはり1番の問題は雨漏りです。このユニットの欠陥は屋根ですね。出っ張り部分が各ユニットにありますよね。母屋と出っ張りの部分の境目・接続部をコーキングで埋めてありますが、その部分が弱くなってくるともう駄目ですね。それと、屋根勾配が全然無いものですから、雨が降った後は必ず雨が溜まっているという面がありますね。新しいうちは塗装もいいですし、表面も凹凸が無い状態だった訳ですけど、幾分古くなってきますと、凹みができたりして、そこにゴミが溜まる等ですね。それが手入れをする上で一番の欠陥と言いますか、苦労しましたね。あと、屋根に庇がないものですから、屋根折板にもう少し出っ張りシロがあれば、柱を隠すという面があったと思うのですが。

N:今回、色々な方のM1を見せて頂いた中で、オリジナルに近いお宅を選んでインタビュー

一に伺わせて頂いているんですが・・・。

M:あまり改築していないということですね(笑)。まあ、家ははそういった面では、外回り等はほとんど手をつけていないですね。

N:余談かもしれませんが、ある意味で M1 の原型をきちっととどめていらして、僕らからすると丁寧に、大事にオリジナルを残して住んで頂いているという気持ちがあるので、非常に嬉しい部分があるんですね。車等もオリジナルを大事に乗って頂いているとそれはそれで価値がありますよね。こちらの M1 には、そういうような印象があります。今回、M1 が Docomomo100 選への認定を記念して、積水化学工業が筑波に保存棟を作ったのですが、オリジナルの部品がなかなか無いんですね。

M:私の家から持っていきますか(笑)？

N:どうでしょうか？そういった意味で Docomomom に認定された近代建築 100 件の中の 1 件に住んでいらっしゃるというお気持ちはいかがでしょうか？

M:そうですね。そういう評価があるということは嬉しいことですね。確かに今までメンテナンス上は、ハイムさんに頼まずにほとんど私自身でやってきたんですよ。屋根のペンキ塗りから外壁の塗り替え、そして雨漏りの修繕まで。業者に頼んだのは 1 回だけですね。ですから、構造的には単純な構造なんだな、という気がしましたけどね(笑)。それだけ、耐震性があって、サッシなんかもがっしりしたものを使っていますし、ガラスも厚いですし、傷まないんですよ。

E:今、こんなに厚いガラスは普通の住宅には無いですよ。裏を直したときも、普通のガラスを入れるといったんですけど、もったいないからということでそのままにしたんですよ。

N:ご家族それぞれの方の、M1 に対する思いについてお聞かせ頂けますでしょうか？

E:明るくて開放的ですね。それから、今こんな時代ですから、地震に強いというのが安心ですよ。

N:実際に住まれて、そういった耐震性に対しての不安感等はいかがだったのでしょうか？

恭子さん(以下、Y):ここに居たら大丈夫じゃないかな、と思っていました。ただ、ガラスが少し怖いですね。

N:恭子さんは子供の頃から M1 に住まわれている訳ですが、どのように感じていらっしゃいますでしょうか？

Y:廊下のある家に住みたかったですね(笑)。

N:最初の頃は、間仕切りも無く、子供さんが遊んでいらしたと伺ったのですが。

Y:そうですね。小さい頃は良かったのですが、大きくなるにつれて、他の家とは違うなと思いましたね。

M:友達を呼んで来れないと文句を言う訳ですよ。

N:そういう意味では、時代の流れと共に印象は変わられてきたのでしょうか？

E:途中で工事現場のプレハブと一緒に、と(笑)。

N:まさにその原型のような家ですからね。

M:今になってみればそういうことでしょうけど、初めて来られる方も、外観と内観の印象が全然違っておっしゃいますね。こんなにいい家なのかと。欠点は少し天井が低いことですね。最近の若い人は背が大きいですから、手を上げると天井についてしまう。ただ、圧迫感は無いですからね。印象としてはそういう感じですが、僕はハイムを選択したこと自体は間違っていなかった気がしています。ただ、先程も言いましたように、本来ならば家族構成がもう少し変わっていなければいけなかったのですが(笑)。そうすれば、さらに違った住みやすさも出てくるかな、という気がしますけどね。ちょっと4人家族で住んでいく上では、6~7ユニットというのは狭いかな、という気がしますけどね。子供たちが中学生位まではそれでも良かったでしょうけどね。

N:もう2ユニット位足すこともできなくはないですよね?

M:庭の部分に広げることはできますけど、そこまでしなくてもいいだろうと(笑)。

N:このワンちゃんは、ずっとここに住んでいる訳ですよね?

E:丸5年位ですね。

N:昨日インタビューに伺った家でも猫がいて、動物が居ても、このワンちゃんを見ていると、とても住みやすそうな気がしますけどね(笑)。

M・E:(笑)。

N:僕らは非常にM1に対する思い入れが強いので、M1で育った犬だと思つと(笑)。

M:床はですね、購入した当初はカーペットだったんです。やはり、犬がいましたので、以前は応接セットのようなものも置いていたんですが、動物と同居するにはカーペットは駄目だということになりまして、全部フローリングに替えまして、家具も一切に置かないことにしました。

N:今後、お宅の増改築や改修等のご予定はありますでしょうか?

M:今年、屋根を直したいと思っているんですよ。

N:それはどういう形に?

M:これはハイムさんには相談していないんですけども、たまたま近くに工務店がありますので、そこへ話をもちかけたところ、上に切妻の屋根を付けたらどうかと。少し原型とは変わってしまいますが、先程申し上げましたように底的なものがないと、どうしても雨漏りしてしまうんですね。横のパイプが一部腐ってきているんですね。

N:なるほど。先程伺ったお宅では、2階の屋根を全部取り払いまして、3階部分を木造で作ってらっしゃいましたね。ですから、2階のある部分は吹き抜けになっていて、構造の一部が露出しているんですね。建築法規上どうなのかわからないのですが、色々な考え方や可能性もありますし、上をいじるのであればその間の空間も使える訳ですし、面白いアイデアだなと思って見てきました。

M:屋根を付ける場合はまず断熱効果ですね。それと雨漏り防止。そうすればあと20年位は住めるかなと(笑)。子供たちの代になったら自分たちで好きなように、ということにした

いと思っていますけどね。

N:その辺りはいかがでしょうか？

Y:先のことはわかりませんからね（笑）。

N:躯体は非常に強いので、僕自身は可能性があると思っています。通常の住宅の場合ですと、壁を壊したりするのは大変なのですが、M1に関して言えば、基本的な部分は非常にシンプルな柱・梁のみで支えている構造になっていますので、通常の改修や増改築よりも低予算でできると思いますけどね。

M:そうですね。この連結部分の出っ張りが必ずしも必要なのかなと思っていましたよ。去年、たまたま水廻りの関係で一番端のユニットをいじった際に大工さんに聞いたら、この部分はなくても大丈夫だよと言う。無い方がすっきりするし、だったらなぜはじめから平らになっていなかったのかなという気がしますけどね。

N:多くの方がその部分を直されていますね。

M:屋根を付ける場合も、2階の一番北側の部屋には、北向きには窓があるのですが、やはり日が当たらない部屋になっていますから、天窗でもつけて直接日が当たるようにしたいと思っていますよ。切妻でも少し角度のきついものにして、天井裏も利用できたらと思います。

N:最後に、ご自身にとってM1とはどのような家だったのでしょうか？

M:私は先程から言っておりますが、半分位家に居なかったということもありますけれども、自分の家庭を守るための位置付けというか、そういう家になったのかな、という気がしますけどね。

E:M1 そのものというよりも、明るくて、冬は暖かく、夏は少し暑かったですけど（笑）。明るいというのが1番印象的ですよ。

M:他の家と比べると、明るさが全然違いますね。家族の明るさというよりも、家そのものが持っている明るさがあるんじゃないかなという気がしますね。

Y:生まれ育った家という（笑）。不便な面もかなり多かったんですけど、居心地はいいかなという気がしますね。

M:住み慣れた我が家。

E:小さくても。本当に小さいですけど（笑）。

M:どんな家でもそうでしょうけど、自分の家に帰ってきたらホッとします。その度合いというのが、自分が守ってきた家に対しては愛着もありますし、その気持ちも強くなるかなと思いますけどね。

N:どうもありがとうございました。